

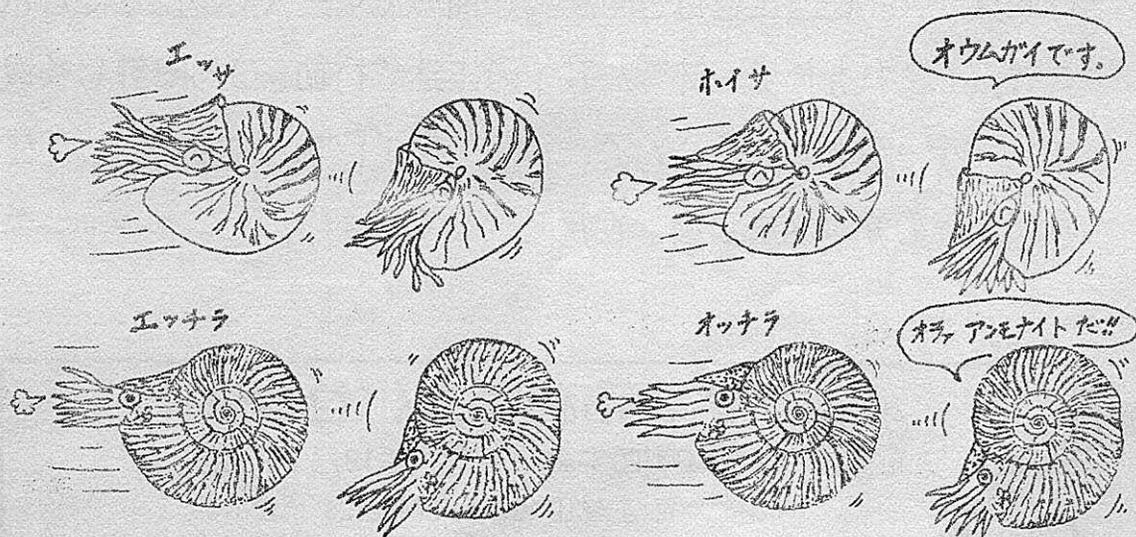
アンモナイト

と オウムガイ

私たちは大昔に絶滅してしまった生き物と、今生きているものの中で似た姿かたちをしているものとを比較して、その生き物がどのようにして生きていたのかを考えることができます。

イカやタコの仲間に関連したアンモナイト類は、今から約4億年前から約6500万年前までの間、世界中の海にたくさんすんでいました。このようなアンモナイトがどのような生活をしていたのかについては、これまでほとんどわかっていませんでした。しかし、最近の研究によって、次第に明らかになりつつあります。

アンモナイトの場合、最も似た生き物にオウムガイの仲間があります。タコやイカの仲間の遠い親戚にあたり、下の図のような形をしています。南西太平洋のフィリピンからジャワ島、オースト



ラリアを経て、サモア島に至る暖かい海の水深10m~500mのところをすんでいます。夜行性で、エビなどの甲かく類を好んで食べるようです。

このようなオウムガイについて、今までわからないことがたくさんありました。どのようにして浮いたり沈んだりするのもその一つでした。この疑問はアンモナイトについても同じことが言えます。以前、オウムガイの浮き沈みは潜水艦のように殻の中のガスの圧力の加減で行われていると考えられていたこともありましたが、研究の結果、体の比重が海水とほぼ同じかやや大きいことから、吸った海水をろうと（漏斗）から噴射させるだけで浮き沈みができるようです。また、泳ぐ時も海水を噴射させて泳ぎ、その速さは毎秒約数cm~25cmで、体を振り子のように前後に振って進みます。進行方向は、ろうとを曲げることによって変えることができ、前進もできます。

おそらくアンモナイトもオウムガイのように大昔の海をゆっくりと泳ぎ、時にはエビなどの動物を捕らえて食べていたと思われる。これから先、オウムガイの生活や行動をさらに詳しく観察し、データを集めることで、アンモナイトがどのようにして生きていたのかを深く知ることができるでしょう。



富山市科学文化センター

富山市西中野町3丁目1番19号 (〒939)

電話 富山(0764) 91-2123(代表)

昭和6 / 年 / 月 / 日発行